

## 根木内歴史公園 観察会

2017年5月27日(土)

参加者6名 西澤

アシが人の背丈ほどに伸びて、サワサワと風に揺れている。手前のミクリのメバナは白く丸いボンボン。クリのようでもある。オバナは黄色い花粉を出しかけている。湿地は、カワヂシャの花、カズノグサ、アゼナルコ、ミコシガヤの季節がやってきた。

ヘビイチゴの赤い実、ドクダミの白い花(ガク)、背丈の伸びたミゾソバをかきわけて進む。カナムグラもしっかり伸びて引き抜くと茎のトゲが痛い。陽ざしは強いが木陰に入ると風がとてもさわやかで、緑の葉と大きく伸びた木々の梢を見上げながら良い季節を感じる。

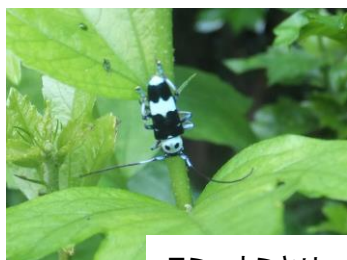
シオカラトンボ、シジミチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、そしてジャコウアゲハもヒラヒラ舞っていた。アカガエルはどうしたのか？姿を見たのは一匹だけ。ウシガエルの声も聞かれなかった。カルガモもいない。日常ここで見かける鳥たちは、どこへでかけたのかしらなどと話ながら進む。木々の間からヒヨドリ、コゲラの声はする。時々澄んだトーンの鳴き声もきこえるが、残念ながら何の声かわからない。

畦道にトキワハゼの花が見られる。アゼ(湿地)ということでムラサキサギゴケとの違いは、どうかということになり両方を比べてみる。花の大きさ、色など確かに違う。葉はサギゴケのほうが丸く幅広。茎もサギゴケは匍枝を伸ばしている。しかし一つだけ見ているとどちらかと迷ってしまう。藤棚下の広場でイヌガラシをたくさん見る。しかしアシの湿地のなかで見かけたスカシタゴボウは一本のみだった。これもよく似た植物だ。

勢力を増しつつあるアシのなかでクサヨシの穂が風にゆれている姿が美しい。そしてフトイもアシに負けずに穂をだしていた。アシの小道を進んでいたら、なんとアオダイショウの死骸が見つかった。70cmくらいで、頭部をやられているようなので、サギかなにか鳥にでも攻撃されたのだろうか。アシをかきわけて進むのは大変だが、小道が作られていたので、アシ藪の中の植物も観察できるし、小道の風景もちよっと風情があってよかった。ただし長靴でなければ通れないけれど。イボクサも見られた。夏にはかわいらしい花が観察できそう。ヤガミスゲ、ツルマメなども見る。崖の下で見たヤブマメ、そしてここでツルマメ、これらもよく似た植物だ。

上の広場のムクゲの葉にカミキリムシを発見。あとで図鑑を見るとラミーカミキリらしい。小型だが青くてきれいなカミキリだ。広場の草むらにはハシボソガラスがとことこ歩いているし、ムクドリも草むらや木々の間に飛び込んでのどかな様子。アンテナにシジュウカラが止まってさえずっている。

草むらにはトキワハゼ、ニワゼキショウ、キュウリグサ、コメツブツメクサ、カタバミ、クローバー、イヌガラシなど。ヤマボウシがしろい花(ガク)をつけ、緑の葉桜に小さなサクランボが赤く実っていた。



ラミーカミキリ ササグモ(足が2本欠損?) ムシコブ(葉)



カタバミ イヌガラシ ニワゼキショウ